



2008年1月20日 H19年度愛知 OLC トレイルO大会 (JOA 指定大会)

愛知 OLC は、毎年この時期にトレイルOの単独大会を開催している。その質の良さは定評があり固定ファンも多い。今回は指定大会でもあり、JTOC 出場のためのE権獲得に31名がチャレンジし、2名が出場権を獲得した。

待ちに待っていた期待の大会

今回の会場は中央線定光寺駅から北へ入った春日井市緑化植物園の公園部分を主に JSSOM2007 に準拠して地図が作成された(作図:野口孝之、岡野英雄)。スケールは 1/4000, 2m。Aクラスは 1.7km, Nクラスは 1.1km。野口の作図力は定評がある。なおコース設定は野口、大会コントロールは岡野である。

コントロールはバラエティに富む。方位課題も少ない。

Aクラスは 15 コントロール、うち 12 か所が異なる特徴物(部)を使用・・・とバラエティに富む。方位を求めるコントロールも7か所と少ない。ともすれば方位判断を要求するコントロールが多くなる傾向にあるなかで、方位判断以外のスキルを求める姿勢は歓迎したい。これは愛知 OLC の昔からの大きな特徴でもある。

珍しいコントロールとしては、「フラッグが1個で、4つの位置説明の中から正しいものを選ぶ」という O-Ringen で多用されている課題形式のコントロールがひとつあったことだ。(これについては後述する)

また、A-Dの4個のフラッグを使用したコントロールが8か所あった。これも愛知 OLC の特徴のひとつだが、難易度を高めるのはフラッグの数を多くするだけではないという考えだ。

制限時間は 100 分であったが、1.7km、アップ約 30m、コントロール数 15 のコースとしてはびったりだ。

よく考えられたコントロール

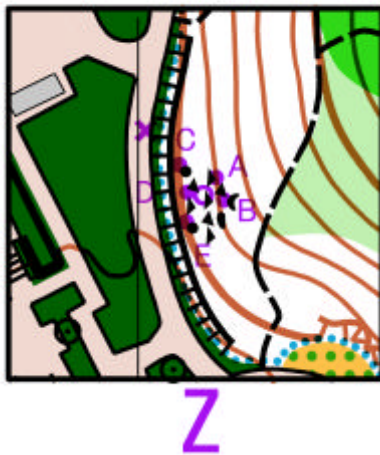
さてなかなか工夫されたコースであったが、素晴らしく良いコントロールがある反面、これは・・・? と思えるものもあった。

最も優れていたコントロールは誰も

が認める #9 (岩石地・写真参照)。15x12m ほどの岩石地に5個のフラッグ。最初に見たときはどのように回答を導いてよいのやらしばらくは途方に暮れるが、地図を熟読すれば岩石地記号の中に、岩の独立記号が混じっており、その中のひとつは岩の形状までが描写されている。これらの岩・石を当てはめてゆくターゲットは絞られる。しかし最後には等高線読みが要求されるもので回答はZ。きわめてよく考えられたコントロールで欧米の大会に出しても引けをとらない優れたものであった。



DPからの#9(岩石地)



また#8(岩がけの上)も優れたセッティングで、一見平凡なようだが熟考が必要。ちなみに正解率は64%と、TC1を除くと最も低い。#13(テラス)も、単なる「テラス」という位置説明であればどこを指すのかというベーシックな知識が求められるよいコントロール。

反面、100%の自信をもって答えられない ややあいまいな置き方の甘いコントロールもあった。また、周辺との整合性が望まれるところもあった。

手間をかけたタイム・コントロールの正解率は・・・

今回の TC はコース途中の#5 と#6 の間に設けられた。日本庭園のような場所を使って、ほとんど同じ位置から2方向を見るというもので、二つの TC エリアは DP の周りをブルー・シートを使って視線を完全に遮断した。

TC1 は南西を見て植込みを確認するもので、正解者の最少時間は5秒が二人。他は全てニケタ台の時間。平均所用解答時間は 20.06 秒、また正解率は 48%と非常に低い・・・ということはなすがそれだけ難しくさせたのか。

フラッグの付いている植込みの奥行きが深くて形状把握と照合に意外に時間がかかったせいかもしれないと思うが、あるいは別の理由があったのか?

TC2 はシートで区分されたすぐ隣のブースに移っての勝負。南向きで、岩のチョイスである。岩はたくさんあるのだが、課題の岩に向かって伸びる土壁に気付いてその延長線上の距離をチェックすればよく、その意味では易しかった。やはり正解率は90%と高い

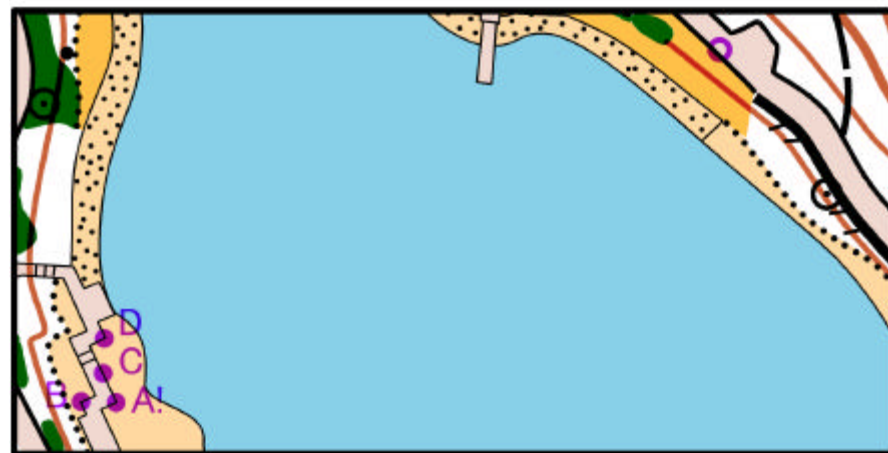
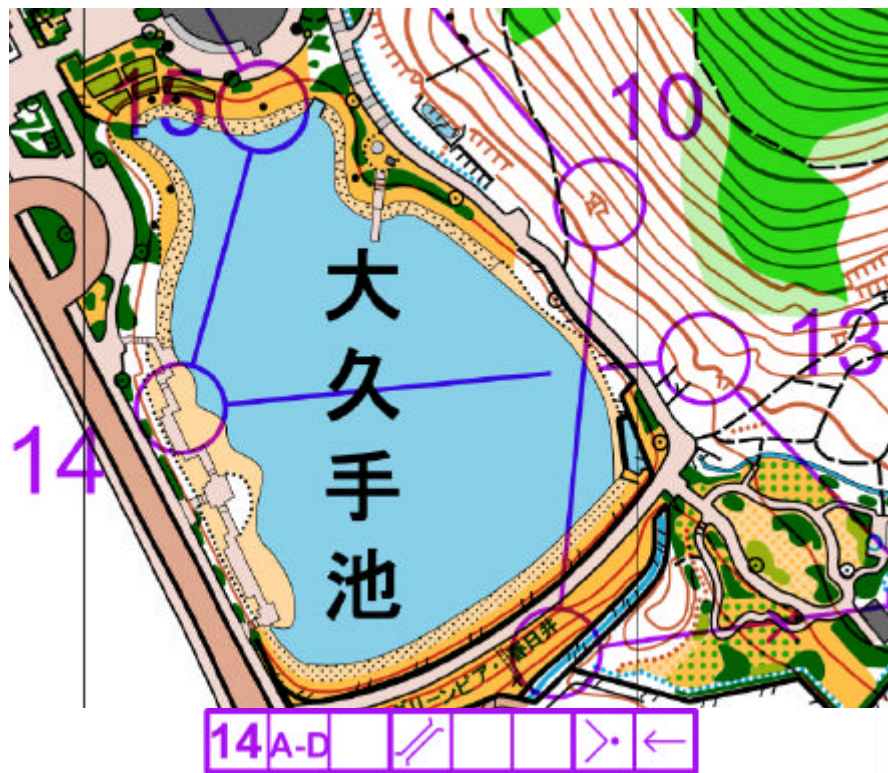
よく出来た TC であったと思う。愛知 OLC の TC は、いつも考えさせられる。

いささか・・・コントロール

#6の「ベンチとベンチの間」は、「間=between」の定義から外れていたようだ。(31名中10名がZ回答、正解率67%) [間=between]を使用する場合の特徴物の選定にあたっては、その形状と大きさに充分注意する必要があるだろう。今回は、テーブルと一体になった大きなベンチであった

[ちしき]: 「間=between」の解釈は、「二つの特徴物の中心点を結ぶ距離の1/2ではなく、それぞれの特徴物の相対する端と端を結ぶ最短距離の1/2の地点」。

#14「橋、東の角(外側)」での問題点は、DPからの距離が約100mと遠すぎることである。景色の良いところを競技者に見せたい」という配慮からか、最近このような(超)遠距離のコントロールが見受けられる大会があるが、視力の弱い競技者についてはゆけない。規定集のガイドラインにはE,AクラスにおけるDPからコントロールまでの距離の目安が明記されている。(GL 3.5.1)



フラッグ一個のコントロール

さて今回の大会で最も問題ありとすべきは「フラッグが1個で、地図上の4つの位置説明の中から正しいものをひとつ選ぶ」という#15コントロールだろう。

現地は1.5mほどの高さの細長い独立岩の南東側にフラッグが一個だけ。南西側、南東側、東側、南側のどの表現が正しいかを選ぶもの。前述のように0-Ringenでは頻繁にでてくる設問スタイルだ。

繰り返すが、このやり方はスウェーデン独自のもので、IOFとしては認めていない。ローカル大会でのトライアルとしては競技者の興味を引くかもしれないが、公認大会と同じ位置付けのトレイルOの指定大会では取り上げるべきではないと考える。

(なお、フラッグ位置は岩の重心点から再測定して間違いはなかったがやや甘く、また、競技者は対峙した一方からしかチェックできず正解を導き出すことが難しいと判断されたため、このコントロールはキャンセルとなった)



#15 岩、南東側」をえらぶ

E件新獲得者2名。有資格者合計は37名となる

さてAクラスのレース結果は以下のとおりである。
(Nクラスは参加者2名のため割愛)

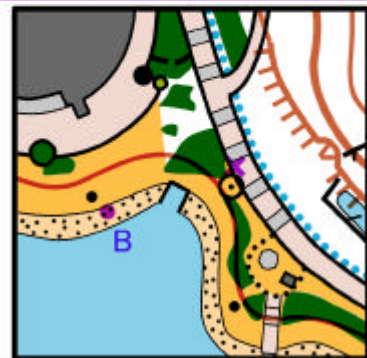
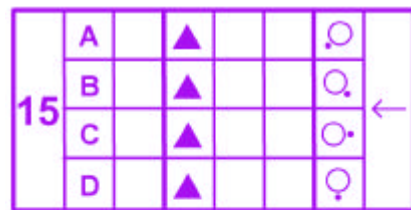
Aクラス成績： 数字は新資格者

1,	田代雅之	16p 24s	満点
	, 茅野耕治	16p 37s	満点
3,	山口拓也	15p 10s	
4,	田中 徹	15p 76s	
5,	鈴木則弘	15p 80s	
	, 櫻内保幹	14p 13s	
7,	小山太朗	14p 43s	
7,	今田幸史	14p 43s	
9,	今井信親	13p 73s	
10,	木村治雄	13p 105s	

5月開催のJTOCに於ける選手権クラス参加資格者に2名が新たに加わった。いずれもベテランである。
残る指定大会は3月2日の京葉大会二日目と、全日本大会の前日3月29日の大阪大会である。はてさてあと何名のチャンピオン・チャレンジャーが誕生するだろうか・楽しみである。

さまざまな話題を提供した愛知 OLC大会であったが、さすがは伝統に裏づけされた良質の大会であった。また来年、この次はどんな内容で我々競技者を楽しませてくれるのか、大いに期待したい。

(こやま たろう)



これからの指定大会

2008年3月2日(日) :

第28回京葉 OLC 幕張・佐倉二日間大会のうち二日目の佐倉大会・トレイルOの部

2008年3月29日(土) :

全日本大会の前日に開催のトレイルO in OSAKA

そして・・・ JTOC : 5月 (於 東京都)